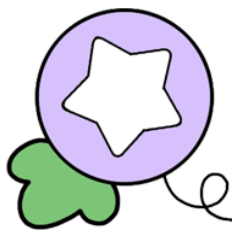
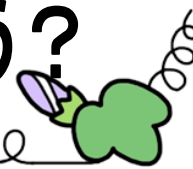


心のとびら

弥富市立桜小学校
道徳通信 No.38
平成28年7月1日



情報モラル教育って何だろう？



現代のような情報社会において、コンピュータやスマートフォンは必需品です。そのような情報機器は、子どもたちの周りにごく当たり前のツールとして存在しています。しかし、そういった機器をどのように使えばよいのか、そしてどんな危険が潜んでいるかについて子どもたちはよく知りません。そこで、情報機器の正しい使い方や、危険に巻き込まれないための身の守り方などを学習し、うまく使いこなすことが必要となります。そうした正しい知識を知ることを情報モラル教育といいます。4年松組では、具体的な場面を想定して、子どもたちが考えて話し合う授業を設定しました。情報化がもたらす問題について、なぜそれが問題なのか、どのように対処すればよいのかを考え、具体的に話し合う活動を通じて、問題を解決しようとする力を育むことを目標とした授業を行いました。



情報モラルって難しい
問題だなあ…



ゲームをやめられない男の子の話为例に考え、夜更かしや朝寝坊をなど生活のリズムが崩れていくときの状況を思い出して、「宿題が後回しになる」「目が悪くなる」「授業中眠くなる」などの意見が出ました。対処法についても話し合い、「ゲームの時間を決める」「やるべきことを先にする」などと考えることができました。次に、個人情報情報の漏洩の危険が日常に存在していることを想定して、情報機器をめぐる危険問題点、危険を回避するための対応につ

いて、自分たちの考えを発表して共有し合いました。「友達の電話番号を教えない」「知らない人からの誘いの電話には、お母さんに代わってもらう」などの意見が出ました。また、携帯電話などへの不審なメールの対処も、子どもたちなりにしっかり考え「メールは返さない」「必ず大人に相談する」ということを確認することができました。

こうした情報モラル教育に各学年が、継続的に取り組んでいくことが大切であると考えています。情報機器の進歩に伴い、より高度な対処方法を子どもたちに理解させていくことも必要であると感じました。



携帯電話は便利だけど、使い方を考えなくてはいいね